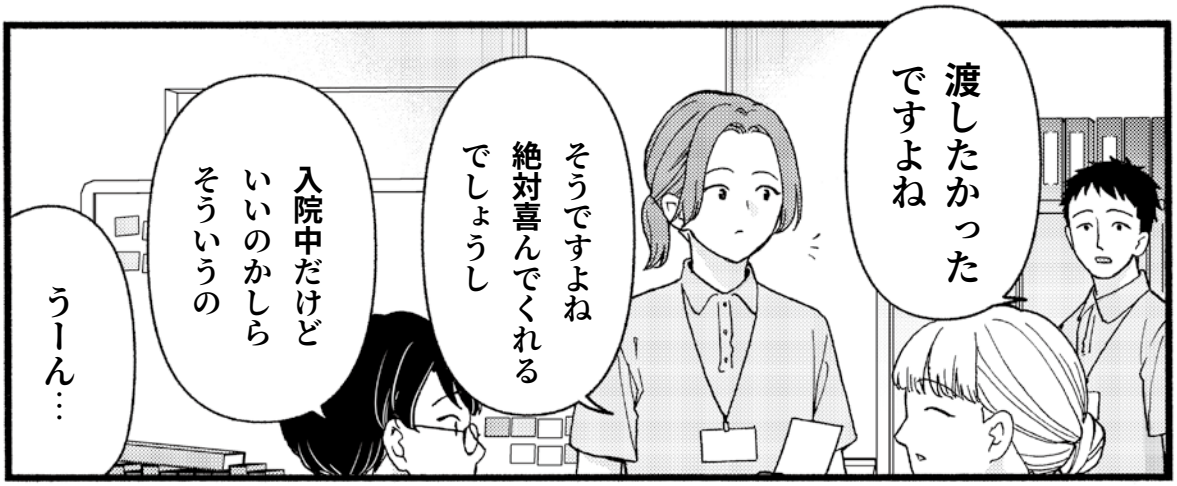
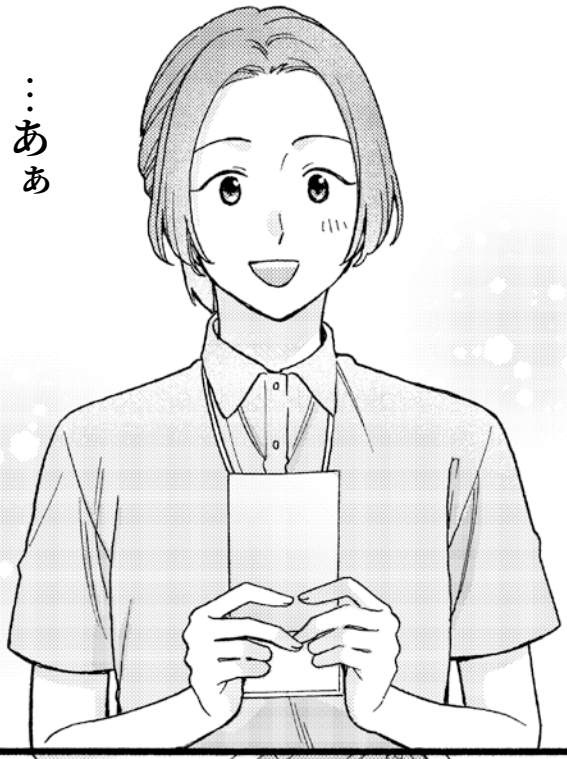
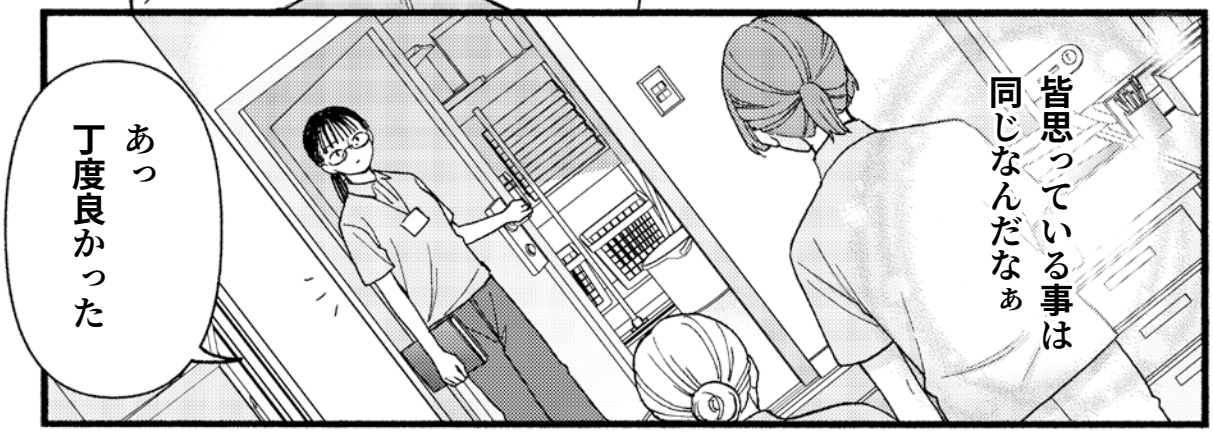
「想いがつなぐ一枚のカード」

心配ですね…
残念でしたね もうすぐ敬老会も あるのに
デイサービスでは ちょうど敬老会に向けて 日頃の感謝の気持ちを込めた 「写真入りメッセージカード」を 作成しているところでした
あ…
これ 自己紹介の時の…
Iさんにも 渡したかったな…


渡したかったですよね
そうですよね絶対喜んでくれるでしょうし
入院中だけどいいのかしらそういうの
うーん…

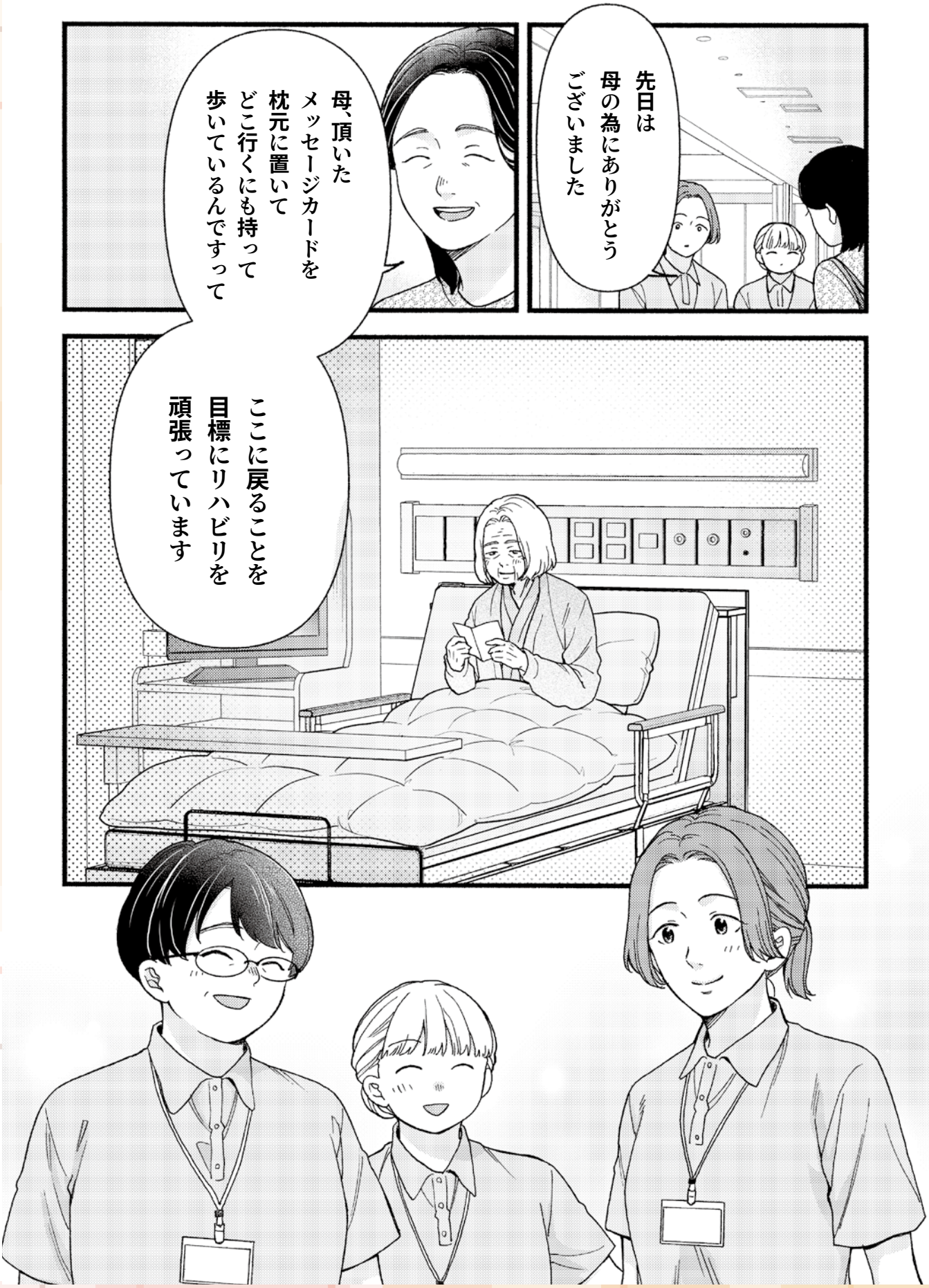
管理者に聞いてみましょうよ！

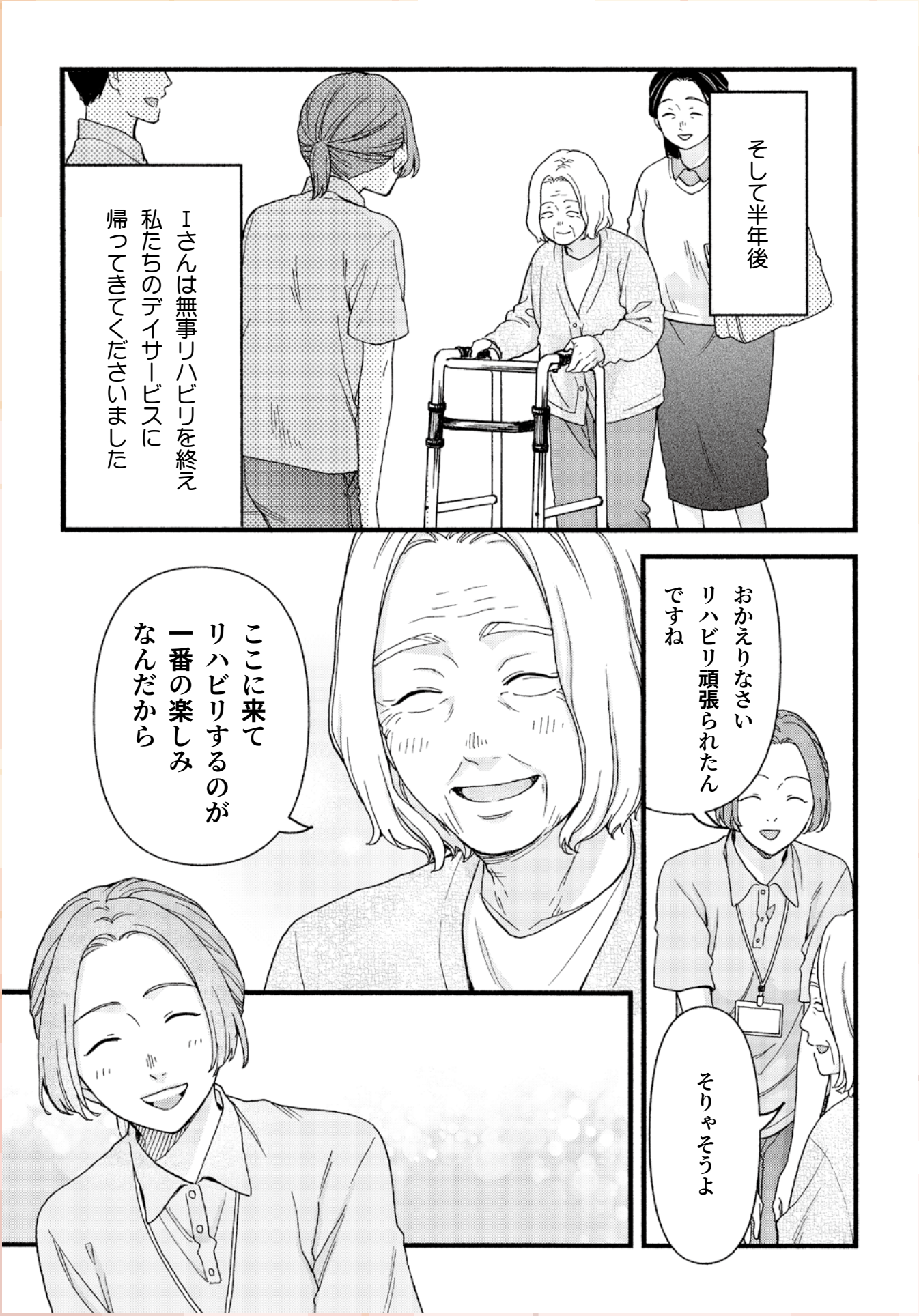

…あぁ


皆思っている事は同じなんだなぁ
あっ丁度良かった

丁度そこに管理者が戻ってきたのでその旨を相談しました
なるほど
ご家族には私が届けるからぜひ作ってあげて
「やりたい」を「できた」にかえる
Iさんへ
数日後
ではこれで朝礼を終わります
…そうそう先日のメッセージカードの件ですが

Iさんのご家族がとても喜んでくださって
〝スタッフの皆様によろしくお伝えください〟と伝言を預かりました
それから少しして運動会に向けた準備をしている頃
ピンポーン
Iさんの娘さんでした


先日は
母の為にありがとう
ございました
母、頂いた
メッセージカードを
枕元に置いて
どこ行くにも持って
歩いているんですって
ここに戻ることを
目標にリハビリを
頑張っています


そして半年後
Iさんは無事リハビリを終え
私たちのデイサービスに
帰ってきてくださいました
おかえりなさい
リハビリ頑張られたんですね
そりゃそうよ
ここに来て
リハビリするのが
一番の楽しみ
なんだから

やまなし介護感動ストーリー大賞　グランプリ作品

「想いがつなぐ一枚のカード」

工藤 亜沙実さん

Iさんは、10年程前からデイサービスを利用されているご利用者様です。自己紹介の際にはいつも照れくさそうにこうお話されています。「ここに来てリハビリするのが一番の楽しみです。」そんなIさんが夏のある日、体調を崩されて入院する事になってしまいました。デイサービスではちょうど、敬老会に向けて、日頃の感謝の気持ちを込めた「写真入りメッセージカード」を作成しているところでした。私は自己紹介の時に照れながら笑っているIさんの写真を見つけ、「Iさんにも渡したかったな…」と写真を眺めながら呟きました。すると、周りにいたスタッフの一人が「Iさんにも渡したかったですよね。」と同じように言いました。それをきっかけに、他のスタッフも「そうですよね。」「管理者に聞いてみましょう。」と声をあげました。その時私は心の中で「あぁ、皆思っている事は同じなんだな」と感じ嬉しくなりました。ちょうどそこに管理者が戻ってきたので「敬老会のメッセージカードをIさんにも作ってお渡ししたいのですが良いですか？」と相談しました。管理者は笑顔で「うんうん。ご家族には私が届けるから、ぜひ作ってあげて。」と答えてくれました。数日後の朝礼で管理者から「Iさんのご家族がとても喜んでくださって〝スタッフの皆様によろしくお伝えください〟と伝言を預かりました。」と報告してくれました。その瞬間、スタッフ全員の顔に自然と笑顔が広がりました。運動会に向けた準備をしている頃玄関のチャイムが鳴りました。娘さんでした。「母、頂いたメッセージカードを枕元に置いてどこ行くにも持って歩いているんですって。ここに戻ることを目標にリハビリを頑張っています」私はその言葉を聞いてIさんへの想いが届いていた事を感じ「これからも一生懸命介護の仕事を続けていくこと」を誓いました。そして半年後Iさんは無事リハビリを終え私たちのデイサービスに帰ってきてくださいました。

「いつか行く道」

甲府の朝は冷え込みが厳しい
ピンポーン
訪問時間10分前…
いい時間かな
カチャ
カチャ
おはようございまーす…
指がかじかむなぁ〜
カララ…

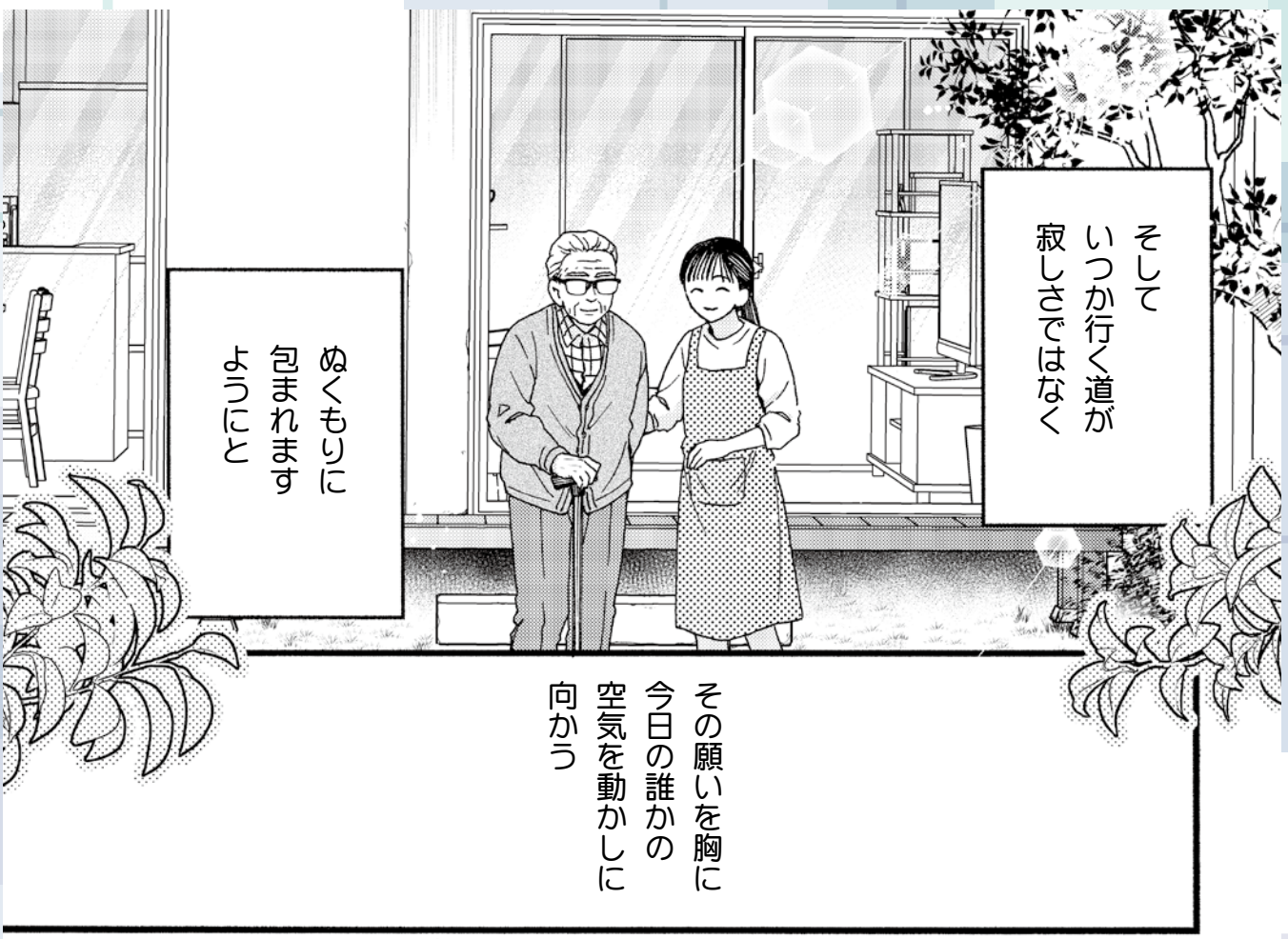
わっ
どーん
どっ どうされたんですか
どうもこうもないよ
ふんっ
あぁもう 冷え切っちゃって 私の手より 冷たいじゃないですか
ぎゅ…

君が来なければ
この家の空気は
動かないんだ
静かな家

都内の病院を
長年勤め上げ
定年後すぐ
最愛の奥様を亡くし
故郷の甲府で
一人暮らしを
続けている
君が来なければ
この家の空気は
動かないんだ

その言葉は
胸の奥深くに
突き刺さった
ずず…
あたたまって
きました？
誰かの存在が
空気を動かし
命を温める
そんな当たり前の
ようでいて
切実な現実が
そこにあった
うん

背中を丸め
両手で包み込む
ようにして
汁椀をすする姿
その姿には
与えられた命を
丁寧に全うしようとする
静かで力強い意思が
宿っていた
今日は
いい気候ですよ
少し外
歩きましょうか
えぇ…
嫌だよ
寒いじゃないか
えぇ～…
あはは
歳を重ねると
言うことは
私たちもいつか行く道
その道が
孤独と寒さに
覆われたものに
ならないように
そう願いを込めて
仲間とともに
この事業を立ち上げた
ご利用者様も
介護に携わる者も
共に「生き歳月を
重ねていく」



やまなし介護感動ストーリー大賞　準グランプリ作品①

「いつか行く道」

切刀 千秋さん

訪問時間の十分前、甲府の朝は冷え込みが厳しく、白く浮かんだ息を吐きながら玄関前に立った。静まり返った家の扉を開けると、鬼の形相で階段に座る姿が飛び込んできた。「どうされたんですか。」声をかけ、手を握ると、その手は芯まで冷え切っていた。「どうもこうもないよ。」不機嫌そうに返されたが、手は弱々しくも握り返された。

都内の病院を長年勤め上げ、定年後すぐ最愛の奥様を亡くし、故郷の甲府で一人暮らしを続けている。「君が来なければ、この家の空気は動かないんだ。」その言葉は胸の奥深くに突き刺さった。誰かの存在が、空気を動かし、命を温める。そんな当たり前のようでいて、切実な現実がそこにあった。

背中を丸め、両手で包み込むようにして汁椀をすする姿。その姿には、与えられた命を丁寧に全うしようとする、静かで力強い意思が宿っていた。歳を重ねると言うことは、私たちもいつか行く道。その道が孤独と寒さに覆われたものにならないように、そう願いを込めて、仲間とともに、この事業を立ち上げた。

ご利用者様も、介護に携わる者も、共に「佳き歳月を重ねていく」そして、いつか行く道が、寂しさではなく、ぬくもりに包まれますようにと。その願いを胸に、今日の誰かの空気を動かしに向かう。

「もう一度、あの笑顔に会いたくて」

えっ
骨折?!
そうなんだよ
大腿骨の骨折で
入院になったって
ええ…
急でしたね
心配だねぇ…
骨折で入院生活を
余儀なくされたAさん
退院後は
食欲も落ち
表情も乏しく
なっていき…
もう
デイサービスに
通うのは
難しいでしょう

主治医の先生はそう仰ってますけど
あんなにお元気なAさんが…なんだか信じられないですね
骨折だものねぇ回復までが大変だし…
それでも
あの笑顔をもう一度見たい
そんな思いから職員がご自宅を訪ねて声をかけました
Aさんお加減いかがですか
すると本人が「またデイに行きたい」と話してくださり
体調を見ながら通所を再開することになりました

主治医の見立ては「いつ何があってもおかしくない」
それでもご家族や遠方の子どもたちと何度も話し合い
…こんなにいい笑顔を見せてくれるなら
〝何があっても本人の幸せのために〟
皆が温かく背中を押してくださいました

通ううちに
少しずつ
食欲が戻り
体重も増え
会話や笑顔も
増えていきました
仲間と過ごす時間が
生きる力になった
のだと思います
デイで過ごす
そのひとときが
Aさんにとって
心から安らげる
時間になっていると
感じます
経営理念
「しあわせを共に」
そんな理念に
沿った仕事が
できることに
日々のやりがいと
誇りを感じています

やまなし介護感動ストーリー大賞　**準グランプリ作品②**

「もう一度、あの笑顔に会いたくて」

星野 淳さん

九十九歳の女性利用者Aさんは、それまで週3回、元気に大月富士見苑のデイサービスに通い、いつも笑顔で仲間と過ごしていました。目標は「もっと元気になって、また日本舞踊に挑戦したい。」その明るい笑顔は、職員や利用者みんなの励みでした。けれども大腿骨を骨折し、入院生活を余儀なくされました。退院後は食欲も落ち、表情も乏しくなり、主治医からは「もうデイサービスに通うのは難しいでしょう」と告げられました。それでも、あの笑顔をもう一度見たいという思いから、職員がご自宅を訪ねて声をかけました。すると本人が「またデイに行きたい」と話してくださり、体調を見ながら通所を再開することになりました。主治医の見立ては「いつ何があってもおかしくない。」それでもご家族や遠方の子どもたちと何度も話し合い、「こんなにいい笑顔を見せてくれるなら、何があっても本人のしあわせのために」と、みんなが温かく背中を押してくださいました。通ううちに少しずつ食欲が戻り、体重も増え、会話や笑顔も増えていきました。仲間と過ごす時間が、生きる力になったのだと思います。デイで過ごすそのひとときが、Aさんにとって心から安らげる時間になっていると感じます。

Aさんの姿を通して、年齢を重ねても「自分らしく生きる」ことを支える大切さを改めて学びました。これからもAさんが安心して笑顔で過ごせるよう、職員一人ひとりが心を合わせて寄り添い続けたいと思います。経営理念「しあわせを共に」に沿った仕事ができることに、日々のやりがいと誇りを感じています。そして何より、Aさんの笑顔が私たちに元気を与えてくれています。

Aさん百歳まであと少し！
一緒に頑張りましょう！